

<先週の指標の動き>

指標名	数値	コメント
7月乗用自動車新車販売台数 (日本自動車販売連合会、 全国軽自動車協会連合会、8/1)	前年比▲6.9% (▲9.6%) (軽自動車含む)	7月の乗用自動車新車販売台数(軽自動車含む)は、半導体の供給不足の影響などを受けて、前年比▲6.9%と13ヵ月連続の減少。内訳をみると、軽自動車(除く貨物車)が14ヵ月ぶりに同+1.5%と増加したものの、普通車が同▲2.4%、小型車が同▲6.0%と減少が持続。
6月家計調査 (8/5) 実質消費支出 (二人以上の世帯) (除く住居等)	前年比+3.5% (▲0.5%) 前年比+2.2% (+0.2%)	6月の実質消費支出(二人以上の世帯)は前年比+3.5%と4ヵ月ぶりのプラス。品目別にみると、感染状況が落ち着いたことで、国内パック旅行費や宿泊料など教養娯楽サービスや、外食が増加。一方で、内食需要の減少から食料への支出が減少。
6月毎月勤労統計 (速報、8/5) 現金給与総額 所定内給与 所定外給与 特別給与 実質賃金 常用雇用	前年比+2.2% (+1.0%) 前年比+1.3% (+1.1%) 前年比+5.8% (+5.3%) 前年比+3.1% (▲5.0%) 前年比▲0.4% (▲1.8%) 前年比+1.1% (+0.7%)	6月の現金給与総額は、前年比+2.2%と6ヵ月連続の増加。内訳をみると、所定内給与が同+1.3%と8ヵ月連続の増加。所定外給与は残業時間の増加を受けて同+5.8%、特別給与も同+3.1%とプラスに。 実質賃金は、消費者物価の高い伸びが続いたことで前年比▲0.4%と3ヵ月連続のマイナスに。常用雇用は同+1.1%と増勢が持続。業種別では、飲食サービス業や建設業、電気・ガス業などで一般労働者が増加。
6月景気動向指数 (速報、8/5) C I 先行指数 一致指数 遅行指数	100.6 前月差▲0.6ポイント 99.5 前月差+4.1ポイント 97.4 前月差+1.7ポイント	6月のC I 先行指数は前月差▲0.6ポイントと、2ヵ月連続の低下。消費者態度指数の低下などがマイナスに寄与。 C I 一致指数は前月差+4.1%と3ヵ月ぶりに上昇。上海での都市封鎖の解除による部品不足の緩和を受けて、耐久消費財出荷指数や鉱工業生産指数などが上昇。内閣府は基調判断を「改善を示している」に据え置き。

※〈 〉は前月の前年比

<国内景気の現状判断と当面の見通し>

(1) 国内景気の現状判断

わが国経済は、製造業で弱い動きがみられるものの、非製造業がけん引する形で緩やかに持ち直し。

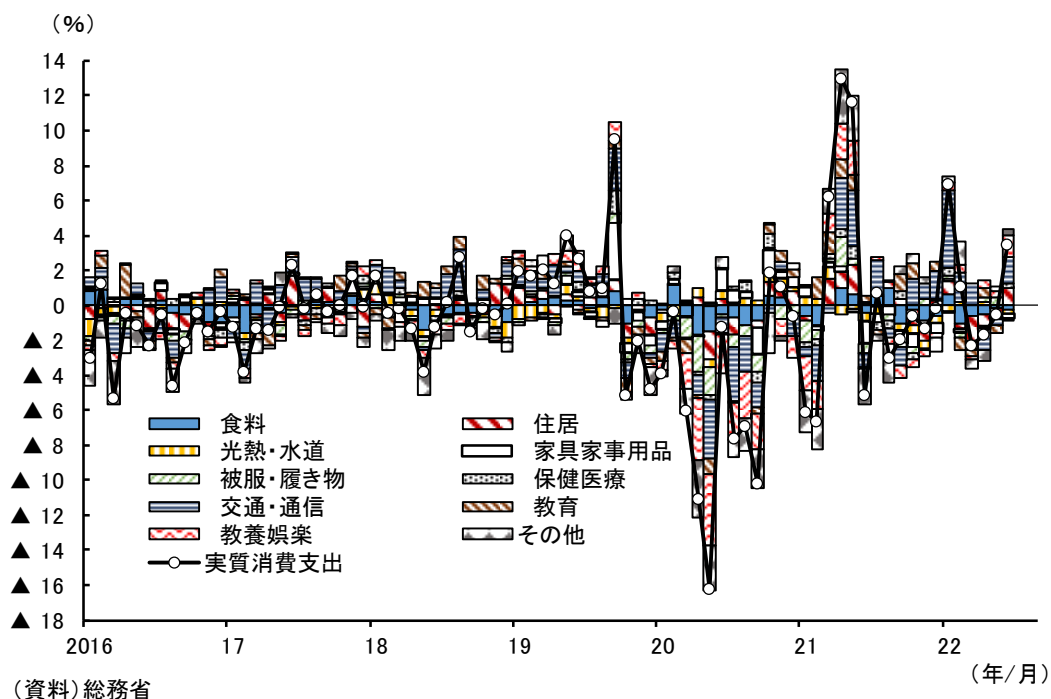
(2) 当面の見通し

先行きを展望すると、景気は新型コロナの感染状況に左右される見通し。10月~12月以降は感染状況が落ち着き、個人消費の持ち直しが明確化するのに伴い、景気回復に向かう見通し。

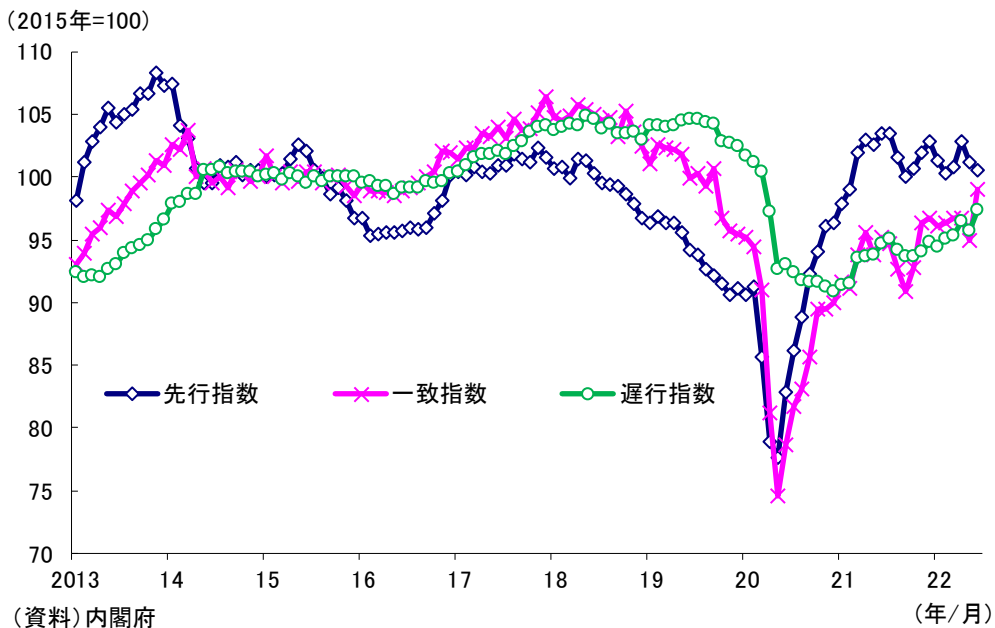
<当面の国内主要経済指標等のスケジュール>

月日	指標名等	発表機関
8/8 (月)	6月 国際収支 7月 景気ウォッチャー調査	財務省 内閣府
8/9 (火)	7月 マネーストック	日本銀行
8/10 (水)	7月 企業物価指数	日本銀行

(図表1) 実質消費支出(前年比)



(図表2) 景気動向指数



本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがありますので、ご了承ください。

